

市民のチャレンジを応援！ 『市民社会チャレンジ基金』

＊『市民社会チャレンジ基金』は、神奈川ネットワーク運動が2001年に創設した、市民による社会を変えていくためのチャレンジを応援する基金です。

福祉や環境など、暮らしの中で気づいた様々な問題・課題を解決するのが政治の役割ですが、そこには自発的な市民の参加が欠かせません。公のサービスに頼ることなく、世の中に必要な「もの」や「サービス」を自らつくりだす、そういう行動力をもった市民が社会を変えていく原動力になっています。

市民が自分たちの暮らすまちの政治に関わり、政策をつくり、政治を動かしていくのがあたり前の『市民社会』を形成するために、「女性」や「市民」によるローカルパーティや多様なNPOの創設、そして政策づくりを応援しています。

＊基金の原資は市民からの寄付

神奈川ネットワーク運動は、心ある市民の意志を活動に活かすため「個人寄付を拡げる運動」を実践しています。基金の原資は神奈川ネットに集う人々や趣旨に賛同する人たちの寄付です。市民による社会を変えていくためのチャレンジを、市民のお金が応援。これまで166件、総額76,599,200円の助成を行っています。

この基金は、以下3つの「チャレンジ」に資金を提供することを目的としています。

1. 全国の女性・市民による政策提案を目的とするローカルパーティ設立



2. 全国のローカルパーティや無所属の女性議員およびNPOが行うチャレンジ性のある政策提案



3. 神奈川県内のNPOの立ち上げや活動に必要な資金



神奈川ネットワーク運動とは

1. 議員は2期8年で交代します。
2. 議員報酬は市民の活動資金として活用します。
3. 選挙はすべて市民のカンパとボランティアで。

第26期助成団体紹介

一課題を抱える高校生の居場所づくり 「NPO法人パノラマ」

1月行われた「市民社会チャレンジ基金交流会2018」では第26期助成8団体の発表が行われ、その中の一つ「NPO法人パノラマ」代表の石井正宏さんから活動報告がありました。

パノラマは県立田名高校の図書館を借りて「びっくりカフェ」という名称で昼と放課後の居場所づくりをしています。お昼ごはんを持参できない子どもたちにはお菓子が用意され、インスタント味噌汁を持参すると具だけはカフェで用意してあり、お腹を満たせるということです。また、大学生のボランティアや近所のおじさん、おばさんに抱える悩みや問題を聞いてもらうだけ、そして、解決への道すじに繋げたり、決して無理強いすることなくさりげないサポートを受けることで高校生の居場所になっているとのことです。

福祉以上、就労未満の若者たちは、福祉の岸にも就労の岸にもたどり着けない状態にあると石井さんは話し、その中州で橋をかけ支援する活動が必須であると熱く語ってくださいました。(T・H)

議員への優遇制度復活

「議員の厚生年金加入」に反対！

—開催中の通常国会に関連法案提出の動き—

2011年廃止された地方議員年金制度に代わり、地方議員を被用者のための制度である厚生年金に加入させる準備が着々と進められています。議員のなり手確保がその理由です。

地方議員年金制度は廃止されたとはいえ、受給権のある議員OBに年金を払うための税金投入が今後50年以上続きます。平塚市でも廃止された2011年から2016年までの6年間で6億3千万円もの税金が投入されています。さらに厚生年金加入となれば、保険料の半分は雇用主(?)である市が負担することになるので、市民の負担はますます増えることになります。

神奈川ネットは引き続き反対の声を上げていきます。